

## 令和5年度 東京都立墨東特別支援学校 経営報告

<学校概要> 本校は肢体不自由教育部門（本校小・中・高3学部と分教室）と病弱教育部門（本校からの病院訪問学級と分教室）の2部門を3拠点（本校・2分教室拠点）5指導形態（本校地域からの通学生への教育、本校からの在宅訪問教育、かもめ分教室による療育センター内教育、本校からの病院訪問教育、いかり分教室による病院内教育）で構成される肢・病併置校に組織改編されて7年目を終える。校舎及び教育環境は36年超の状態である。

<中期計画と現在位置> 母体となった養護学校開校から36周年の今年度を、来る開校40周年の2年前に至る直近3年間を新たに「学校教育基盤充実期」と捉え、中期目標①～⑤を設定し直し、その初年度とした。

- 目標① 次世代教職員への継承/策：急速に進む世代交代を見据え、若手教員等が今後の指導と学校運営を担えるように指導計画の蓄積やシステム整備を進め、効率的に継承できるようにする。
- 目標② 専門性の内部留保/策：専門性に基づく諸実践や業務ノウハウを共有できるシステムを構築し、培った指導の専門性や関係業務の遂行方法を組織として内部留保できるようにする。そのためには外部専門員についても実績と成果を踏まえた人材の刷新や学校ニーズに即した専門人材を新たに招聘する。
- 目標③ 教育内容の絶え間ない更新/策：社会に開かれた教育課程の下、社会の変化を教育に反映させて内容刷新を図る。そのためには外部講師の先進性や企業のテクノロジーとその活力を積極導入する。「学校から社会へ」と「社会を学校に」
- 目標④ 新学習指導要領に基づく教育課程の開発/策：急速な世代交代が進む中、個人の経験と勘に頼らず指導できるように、学習指導要領及び文科省著作教科書に基づき、単元計画等の指導計画を開発・共有できる仕組みを構築する。
- 目標⑤ 人権尊重を基盤とした相談支援体制の充実/策：特別なニーズをもつ児童・生徒の人権を最大限に尊重し、真摯に相談支援できるように全教職員の資質向上を図る。また、培った相談支援の専門性を地域支援に最大限活用できるように体制を充実させる。
- 目標⑥ 働きやすく効率的なビジネスシステムと環境の構築/策：業務の見直し及び最新ビジネスツール投入等により効率化を目指したシステム改善を推進する。

### 1 今年度の取組目標等に関する自己評価



※ 目標に対する実施内容と自己評価（最重点目標に関する数値目標と実績値）

**最重点目標 1** 墨東生が一体感と誇りをもてる教育活動等の展開 **自己評価** ○

**数値目標** 保護者等全関係者評価「墨東としての良さを創出している」 $\geq 70\%$  → **プラス評価83%**

**方策** 墨東生としての誇り実感プロジェクト <主管：主幹会、教務部、情報メディア部、経営企画室>

- ① 学校一体感の醸成（全校読書活動・全校芸術活動の開発と展開）  
→ 全校読書活動PJ/読書月間2回、多読賞表彰20名、読書通信「読書の冒険」発行により読書習慣の定着  
墨東アートPJ/校舎スロープ1～3階全体を絵画額26面を常設し、分教室を含む児童・生徒作品を常設展示
- ② 学校の良さ発信（HP更新とツイッター発信の強化・リーフレット刷新等の広報充実）  
→ X（旧Twitter）を330回更新し、学校情報を常時発信
- ③ 学校環境の整美（墨東きれいプロジェクトによる断捨離と校内掲示統一ですっきり環境の実現）  
→ 職員室環境改善、打合せ兼休憩室新設、車椅子置き場ゾーン化による避難路確保、校内表示統一と床面案内表示設置

**最重点目標 2** 効率的・機能的な学校組織の確立による組織力向上 **自己評価 ◎**

**数値目標** 委員評価「ライフ・ワークバランスを踏まえた業務改革を推進している」 $\geq 70\%$  → **プラス評価 100%**

**方策** 運営効率化プロジェクト：3年次 <主管：主幹会、教務部>

- ① 業務改善提案の積極採用による効率的な方法の導入や業務の見直し（例：研究集録の廃止）  
→ 研究紀要を廃止し、授業改善ハンドブックに置換、会議資料ペーパーレス化、通知表リニューアルによる表記量縮減
- ② 主幹・主任教諭等の職責や看護師等の専門性を踏まえた業務目標の明確化（業務ミッション一覧）  
→ 業務mission一覧による業務の明確化、主任の到達目標の共有化、主幹・主任教諭の責任階層の明確化
- ③ 全教職員の業務量の平準化を目指すための全分掌業務リスト作成及びDX化推進（分掌業務一覧）  
→ 分掌業務等を原則1分掌3業務ラインして担当責任者の明確化（主幹3ライン統括、主任ライン統括）

**最重点目標 3** 専門性ある人材を活用した教育の充実 **自己評価 ◎**

**数値目標** 委員評価「専門性ある人材の活用が教育充実につながっている」 $\geq 70\%$  → **プラス評価 100%**

**方策** 専門人材活用プロジェクト <主管：主幹会、研究研修部>

- ① 学習指導アドバイザーによる個別学習への継続的支援導入による指導改善（増額申請対応）  
→ 外部専門員を招聘して10月より基礎段階の個別学習支援の開始（児童・生徒計19名、教員12名への専門的助言）
- ② 校内専門人材リストの作成・共有による校内サポートネットワークの構築と活性化  
→ 「誰でも相談リスト」を作成・共有を開始し、教職員間で悩み相談や教材と指導のコツの教え合い機会の提供
- ③ 学校介護職員・病弱教育支援員等の職の専門性に応じたスキルアップ研修による協働の質的向上  
→ 指導実技研修の受講機会を設け、個別指導時の教育支援力向上。（視線の補足、教材提示方法、言葉掛け）

**最重点目標 4** 授業力の向上 ☆個別学習等の力量形成 **自己評価 △**

**数値目標** 関係者（委員+教員）評価「基礎学力向上を図り、学習説明を工夫している」 $\geq 70\%$  → **プラス評価 87%**

**方策** 基礎学力向上指導を含む授業力向上プロジェクト<主管：教務部、研究研修部>

- ① 専門家・指導教諭等を活用した指導実技型授業力向上研修の実施（全教員対象研修）  
→ 外部専門員を招聘して教職員対象の指導実技研修：夏季3回、保護者学習会2回の実施
- ② 学習指導アドバイザーによる個別学習への継続的支援導入による指導改善（増額申請対応）※再掲  
→ 外部専門員を招聘して10月より基礎段階の個別学習支援の開始（児童・生徒計19名、教員12名への専門的助言）
- ③ 指導に関する説明力の向上（授業参観ガイド作成・事前配布、読み手である墨東生向け通知表の工夫）  
→ 授業参観時に授業参観ガイドを作成・事前配布（各学部2回）  
児童・生徒向けの分かりやすい通知表の導入（変容時の画像と本人に伝わる賞賛表記の工夫）
- ④ 授業者支援会議で得たノウハウ蓄積による改善策の共有（授業改善ハンドブックの作成）  
→ 支援会議成果を編集し、授業改善ハンドブックを作成・配布及び次年度の初任者研修用指導改善テキストとして活用

**最重点目標 5** 専門性の発揮・向上による特色ある教育の推進 **自己評価 ◎**

**数値目標** 委員評価「専門性を発揮した教育活動が展開されている」 $\geq 70\%$  → **プラス評価 100%**

**方策** 専門性発揮プロジェクト <主管：相談部、情報メディア部>

- ① 都指定事業：全校読書活動の展開による読書習慣の一層の定着  
→ 1階にオープンライブラリ、1～3階に図書ラウンドを設置し、年間1530冊の貸出実績による読書習慣の定着

- ② 都指定事業：理解啓発につながる地域とのスポーツ交流等の展開（交流学习と関連付け）
  - 都主催の小学生ボッチャ交流大会に本校&毛利小児童有志が合同チームで参加
    - 「大島西中生と本校中学部生」及び「毛利小4年生と本校小学部生」によるボッチャを通じての交流授業
- ③ GIGA 端末等を活用した ICT 教育の一層の充実（分身ロボット、プログラミング学習他）
  - 病弱教育部門、ロボットプログラミング選手権の関東大会を経て、全国大会に出場しベスト 8 の実績
- ④ 意欲ある墨東生の検定挑戦等への意欲喚起・試験準備等の学習支援
  - 漢字検定、英語検定への受験者 27 名（前年度 25 名）

**最重点目標 6** 園生が安心して学校生活を送れる生活指導体制の構築 **自己評価** △

**数値目標** 関係者（保護者+委員）評価「防災対応が充実している」 ≥ 70% → **プラス評価 89%**

**方策** 安心・安全プロジェクト <主管：生活指導部>

- ① 感染予防策を講じた上での宿泊を含む校外学習全面再開に向けた教育活動の段階的拡大
  - 宿泊を伴う校外学習をコロナ前の形態に復帰、運動会・体育祭・授業参観・文化祭等の来客者制限緩和
- ② 宿泊防災訓練の再開及び危機管理マニュアル改訂への反映、防災訓練等の取組み発信及び地域連携
  - 宿泊防災訓練の完全実施。備蓄品一覧や被災時対応を特集した防災教育通信「防災の橋」を 2 回発行
- ③ 安全の徹底及び万一の事故を教訓とした再発防止策徹底（保護者への事故再現と説明、再発防止訓練）
  - 重大事故<指導下の骨折事故>を全保護者に公表し、直ちに事故解析を進め、結果を全教員対象の事故再発防止研修に反映。生徒の通学再開後、保護者を事故現場に招いての事故再現検証と原因分析に基づく再発防止策の説明
- ④ いじめ・体罰防止、自殺防止教育推進委員会を活用した早期把握と面談を活用した積極的予防の推進
  - 企画調整会議後に隔週実施し、早期の情報共有による未然防止と即時対応による早期解決

**最重点目標 7** 感染症予防徹底を含む安心できる保健体制と安全で美味しい給食の提供体制の構築 **自己評価** △

**数値目標** 保護者を含む全関係者評価「感染予防も含め、安心・安全な体制を構築した」 ≥ 70% → **プラス評価 92%**

**方策** 保健・医療的ケア・給食の充実プロジェクト <主管：保健給食部>

- ① 感染予防対応の徹底を含めた健康教育の推進（衛生的な環境の確保と想定訓練、情報発信）
  - 5 類以降に伴い感染症対策緩和を前提として、状況に即した教職員指導体制及び感染予防体制の調整
- ② 専用通学車両看護師乗車率向上、校外学習時の看護師付添拡大、保護者の就学時及び呼吸器・注入に伴う校内待機の確実な縮減を含めた医療的ケアに関する学校対応の一層の充実
  - 専用車両増車により 10 台運行に拡大。看護師同乗拡大による保護者付添いの縮減を最大限努力。
- ③ 初期食シリンジ注入や形態食提供による個に応じたケア及び摂食指導充実及びアレルギー事故防止徹底
  - 摂食相談医と摂食指導アドバイザーと連携した形態食の提供及び指導医の助言を生かした医療的ケアの実施
- ④ 個に応じた安全で美味しい給食提供と楽しい給食タイムの実現（例：行事・季節・テーマ・リクエスト食）
  - リクエスト給食（卒業学年の希望食）、季節に合わせた給食や地方の文化等を尊重した給食の提供

**最重点目標 8** 教育相談・進路指導・地域支援の充実 **自己評価** ◎

**数値目標** 委員評価「進路指導や進路情報、地域支援の内容を適切に伝えている」 ≥ 70% → **プラス評価 100%**

**方策** 相談支援充実プロジェクト <主管：相談部>

- ① 入学相談を含む教育相談や地域支援、進路等に関する情報の一元化を基盤とした組織対応の徹底
  - 入学相談：問題作成委による学力調査問題作成と過去問題開示による準備学習機会の提供

- ② <病院内教育> 病院と連携した転籍前教育相談支援、分身ロボット活用も含めた復学支援の推進  
→ 実態や制約に応じたOriHimeやTeams等を活用した指導の展開、個に応じた復学支援会議の開催
- ③ 進路指導の充実〔個に応じた実習（遠隔を含む）指導、進学・就労への丁寧な対応〕  
→ 関係区の福祉部署と連携した実習を踏まえた希望者全員の進路決定。進学希望者1名の大学進学実現
- ④ 卒後・生涯学習支援（校内販売機会提供による就労実像の把握、業務習熟への支援、同窓会等支援）  
→ 近隣区の福祉就労施設生産部門への校内販売機会の提供による卒業生の就労実像把握機会の校内提供
- ⑤ 学校PTA及び各種別の広域PTA（全国・関東ブロック・都組織を含む）活動への協力  
→ 全肢P栃木大会への教員・学校介護職員の派遣と成果報告会の開催による保護者連携の充実

**最重点目標9** ライフ・ワークバランスを踏まえた、働きやすく魅力的な職場環境の創出 **自己評価** ○

**数値目標** 教職員等関係者評価「働きやすく効率的な執務環境整備が進んでいる」 $\geq 70\%$  → **プラス評価88%**

+ 全教職員の時間外勤務の縮減<時間外勤務月45h超教員の解消> = 超過者0名 → 全教職員の約5%が超過

**方策** 職場環境改善プロジェクト <主管：主幹会、教務部、経営企画室>

- ① 学校環境の整美（墨東きれいプロジェクトによる断捨離と校内掲示統一ですっきり環境の実現）  
→ 職員室美化、卓上モニター&照明の配備、椅子の入替、打合せ兼休憩室・電話室の新設、校内案内床表示の設置
- ② 業務のDX化推進（例：出欠連絡の新システム導入、印刷週布からデータ配信に移行） ※再掲  
→ 校務のOA化推進、AI研究校としての校務活用、都指定欠席等連絡アプリの3月からの試験運用
- ③ 職場環境の改善（リフレッシュ資源の導入）  
→ セルフスイーツショップ「オフィスグリコ」の本校舎内3室への設置によるリフレッシュ機会の提供
- ④ 教職員のメンタルヘルスケアとライフプラン構築へのサポート（産業医面談、ミニセミナー他）  
→ メンタルヘルス&マネーセミナーの開催によるライフデザインサポートと産業医面談の励行
- ⑤ 夏季休業期間中に、休暇取得奨励期間「しっかり休もうリフレッシュ16days」の設定  
→ 学校閉庁日+休日+休暇取得推奨日による16日間連続休み奨励：全教職員の95%超が16日連続休み取得

**最重点目標10** 研究と修養目標：ライフ・ワークバランスを踏まえた個々の研鑽奨励 **自己評価** ○

**数値目標** 教職員の自己評価「業務に生かせる研鑽ができた」 $\geq 70\%$  → **プラス評価90%**

**方策** 日々の授業改善と自己研鑽の成果を発信プロジェクト <主管：研究研修部>

- ① 授業者支援会議の全面導入（若手：授業改善力の育成、経験者：支援力の向上）  
→ 指導者の授業力、経験者の支援力向上につがる授業者支援会議33回の実施
- ② 授業者支援会議で得たノウハウ蓄積による改善策共有と活用（授業改善ハンドブック作成）  
→ 支援会議成果を編集し、次年度初任者研修用テキスト活用前提とした授業改善ハンドブックを作成・配布
- ③ 専門家・指導教諭等を活用した指導実技型授業力向上研修の実施（全教員対象研修） ※再掲  
→ 外部専門員を招聘して教職員対象の指導実技研修：夏季3回、保護者学習会2回の実施
- ④ 前期：自分で発見・選択した研鑽機会の還元レポート提供による校内活性化（中間申告書記載）  
→ 東京教師道場派遣リーダーによる同上成果還元レポートの作成と提供他
- ⑤ 中期：実践で手応えのあった授業の工夫改善を「授業の工夫シート」作成と共有（HP掲載）  
→ 全校ウェブ掲示板を活用した指導の工夫事例の共有他
- ⑥ 後期：全国各地のweb公開研など自分で探し出した研鑽機会のレポート（自己申告記載）  
→ 読書活動研究会等の参加者レポートの共有他



## 2 次年度以降の課題とそれに対する改善策

### (1) 東京都特別支援教育推進計画（第2期1・2次実施計画）及び都教育委員会施策への取組み改善策

- ◆都推進計画をふまえ、令和6年度経営計画には次段階の取組目標・内容を示す。（以下に記載列）
  - ◎ 指導要領知的障害各段階及び教科書に準拠した指導計画作成と実践例の共有化による効率化に着手
  - ◎ 専門家を活用した学習指導要領への的確な対応（基礎段階の個別学習の日々の積上げ徹底）
  - ◎ 学校図書館の更なる充実、全校読書月間等の継続による読書習慣の一層の定着
  - ◎ 小中学部 GIGA 端末・高等部一人1台端末を活用したAI活用、プログラミング学習などICT教育の充実
- ◆医療的ケアに関する諸事業＜保護者付添い短縮化、専用車両運行他＞を推進し、保護者付添いを縮減する。
- ◆時間外労働時間低減に加え、働く手応えを感じ取れる業務開発や環境整備、到達点を共有できる組織運営を行う。

### (2) 中期計画を踏まえた学校教育充実の改善策 ※中期計画は令和5年度学校経営計画参照

- ◆来る開校40周年に向けた基盤整備を進める
  - ・学校環境の整備継続／校舎内外の美化、指導の安全、防災機能充実
  - ・学校組織の整備／強固でしなやかな学校運営組織の構築と魅力ある教育活動の開発及び成果発信
  - ・学習指導要領（知的障害各段階）に基づく指導計画の開発と共有を進める。
- ◆基礎学力の獲得を基盤とした自己肯定感の醸成と個性ある才能の発揮
  - 全：学校図書館の充実とともに、家庭貸出奨励及び授業と連動した図書活用など全校で多面的展開を進める。
  - 全：スポーツ表彰・アート表彰・書道表彰・読書表彰・模範生表彰等を継続し、輝く個性を見出す。

### (3) 令和5年度学校経営報告及び学校評価から導く「自己設定課題」に対する改善策

- ◆**最重点目標4** 授業力の向上 ☆個別学習等の力量形成 自己評価 △  
⇒ 学校環境改善の継続及び基礎段階の個別学習の質的改善の徹底
- ◆**最重点目標6** 学園生が安心して学校生活を送れる生活指導体制の構築 自己評価 △  
⇒ 校内事故防止策の徹底による事故0期間の拡大
- ◆**最重点目標7** 安心できる保健体制の構築 自己評価 △  
⇒ 医療的ケアに関する諸事業＜保護者付添い短縮化、専用車両運行他＞を推進し、保護者付添いの縮減
- ◆**最重点目標9** ライフ・ワークバランスを踏まえた、働きやすく魅力的な職場環境の創出 自己評価 ○  
⇒ 時間外労働時間低減を一層進めるとともに、働く手応えを感じ取る事ができ、到達点を共有できる運営

### (4) 人材育成の改善充実策

- ◆今後の併置校運営を担うリーダー人材を育成する。（教育管理職、4級職、主任教諭挑戦者の育成）
- ◆将来の教員リーダーとなるために、各種委員への推薦、派遣研修への選考挑戦の奨励と支援
- ◆教員志望者応援講座及び初任者パワーアップ講座を開催して、将来の特別支援教育を担う若手人材を育成
- ◆介護等体験生や見学生向けに「保護者談話」を組込む等の特別支援学校教員のやりがいや伝わる企画の開発。
- ◆特別支援学校教員志望者増に向けて、高校・大学段階からの情報提供と見学・体験機会の提供

※各項目に関する関係者（委員、教職員、保護者）評価の詳細は、本校HPに掲載の「令和5年度学校運営連絡協議会報告及び学校評価アンケート集計結果、分析・検証結果、学校評価アンケート報告」を参照。